

学芸員の研究発表など

発表「天文関係の図版作成のためのいくつかのTips」

江越 航(学芸員)

全国プラネタリウム大会2025大阪(2025年6月18日)

天文現象の説明を行う際には、国立天文台やNASAなどの機関が作成した図版を利用することが多い。しかしこうした図版を自分自身で作ることができれば、目的に応じてカスタマイズし、オリジナリティのある図にすることができる。

このために便利な、PythonやQGISなどのフリーで使えるソフトウェアがある。これらのソフトを用いれば、知識がなくても複雑な天文計算を行い、地図を含む様々な図を描くことが可能になる。自分自身で天文関係の図版を作成するための、いくつかの手法を紹介した。

発表「科学館における科学技術史資料の公共化 歴史的物理実験機器資料を中心に」

吉岡 克己(館長・学芸員)

第16回全国理工系学芸員展示研究大会(2025年11月28日)

科学技術史資料には地域に密着したものが少なくない。これらを収集し、調査・研究、公開・活用することは、その地域の科学館こそが担うべきものである。しかし、地域の科学館の多くはサイエンスセンターとしての活動が重視され、博物館的資料に対する取組み体制が十分ではない。

本発表では、これらの背景の下、筆者が取り組んだ事例を中心に資料の調査・収蔵から公開、アーカイブ化による活用まで課題と効果を整理した。

発表「大阪市立科学館の資料について」

小野 昌弘(学芸課長)

第16回全国理工系学芸員展示研究大会(2025年11月28日)

大阪市立科学館の館蔵品は、当館の前身である大阪市立電気科学館から引き継いだ資料を含め、2025年3月末現在で2,270件である。本発表では、当館が1989年に開館し、その後1996年に当時の博物館法における「登録博物館」となるための館蔵品の登録手続き、またそれに伴う現在の諸問題についての現状を紹介した。またこれら諸問題の解決策や、将来的にジャパンサーチとの連携をはかるための方策などについて報告した。